

各測定所における環境試料中の核種分析調査結果 【環境放射線等モニタリング調査】

大気浮遊じん

放射化学分析

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和6年4月 - 令和7年3月		令和3年4月 - 令和6年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND	ND	ND	ND - 0.0013	ND	ND - 0.0026
竜飛岬	ND	ND	ND - 0.0042	ND - 0.0017	ND	ND
佐渡関岬 ^{※1}	ND	ND	ND	ND	ND	ND
越前岬	ND	ND	ND	ND	ND	ND
隱岐	ND	ND - 0.00093	ND	ND - 0.0016	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	ND	ND - 0.0011	ND	ND
櫛原	ND	ND	ND	ND - 0.0015	ND	ND - 0.0038
対馬 ^{※2}	ND	ND	ND	ND - 0.0011	ND	ND
五島	ND	ND - 0.0011	ND	ND - 0.0079	ND	ND - 0.0013
辺戸岬	ND	ND	ND	ND - 0.0010	ND	ND - 0.0015

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取終了日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

※1 佐渡関岬測定所は暴風雪の影響により停電が発生し、令和3年1月7日～令和4年5月25日の期間は試料が採取されていない。

※2 対馬測定所は、令和5年6月28日～9月19日の期間で落雷により測定機器不具合が発生した。令和5年度第2四半期は、吸引量が少ない(通常の1/9程度)ため参考値とする(当該測定値はNDである)。

大気浮遊じん

単位:mBq/m³

採取地点	試料採取日	ろ紙(Lot.No)	積算流量(m ³)	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R6/4/1-7/2	30801052	13200	(< 0.01)	(< 0.006)	1.6 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/7/2-9/30	30801052	13600	(< 0.008)	(< 0.006)	1.4 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/30-12/31	30801052	14100	(< 0.007)	(< 0.006)	1.7 ± 0.15	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/31-R7/4/3	40806052	13800	(< 0.008)	(< 0.006)	1.5 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
竜飛岬	R6/3/29-7/1	30801052	13400	(< 0.008)	(< 0.006)	1.8 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/7/1-9/30	30801052	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	1.8 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/30-12/27	30801052	13200	(< 0.009)	(< 0.006)	2.3 ± 0.16	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/27-R7/3/31	40806052	14200	(< 0.009)	(< 0.006)	1.9 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
佐渡関岬	R6/3/29-6/28	30801052	13600	(< 0.008)	(< 0.006)	3.1 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R6/6/28-9/30	30801052	14300	(< 0.007)	(< 0.006)	1.6 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/30-12/26	30801052	13100	(< 0.009)	(< 0.006)	2.4 ± 0.17	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/26-R7/3/31	40806052	14000	(< 0.009)	(< 0.007)	2.3 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
越前岬	R6/3/19-6/20	30801052	13100	(< 0.009)	(< 0.007)	2.6 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/6/20-9/19	30801052	13500	(< 0.008)	(< 0.006)	1.2 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/19-12/19	30801052	13300	(< 0.01)	(< 0.006)	2.6 ± 0.18	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/19-R7/3/21	40806052	14000	(< 0.009)	(< 0.006)	2.1 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.002)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気浮遊じん

単位: mBq/m³

採取 地点	試料 採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隱 岐	R6/3/21- 6/27	30801052	13800	(< 0.007)	(< 0.006)	2.5 ± 0.08	(< 0.002)	0.00093 ± 0.00029
	R6/6/27- 9/26	30801052	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	1.4 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/26- 12/26	30801052	13000	(< 0.01)	(< 0.006)	2.7 ± 0.17	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/26- R7/3/24	40806052	13500	(< 0.009)	(< 0.006)	2.8 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
蟠 竜 湖	R6/3/25- 6/27	30801052	13600	(< 0.008)	(< 0.006)	1.4 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R6/6/27- 9/27	30801052	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	1.3 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/27- 12/20	30801052	9900 [※]	(< 0.02)	(< 0.009)	3.1 ± 0.23	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/12/20- R7/3/21	40806052	13700	(< 0.008)	(< 0.006)	2.3 ± 0.08	(< 0.002)	(< 0.0009)
檜 原	R6/3/25- 6/17	30801052	12600	(< 0.008)	(< 0.007)	2.3 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/6/17- 9/24	30801052	14400	(< 0.008)	(< 0.006)	1.2 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/9/24- 12/27	30801052	14100	(< 0.009)	(< 0.006)	2.4 ± 0.15	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/12/27- R7/3/17	40806052	12200	(< 0.009)	(< 0.006)	2.8 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.001)

※ 蟠竜湖測定所は、令和6年10月17日～11月1日の期間で測定所設備不良により機器を停止したため、吸引量が少ない。

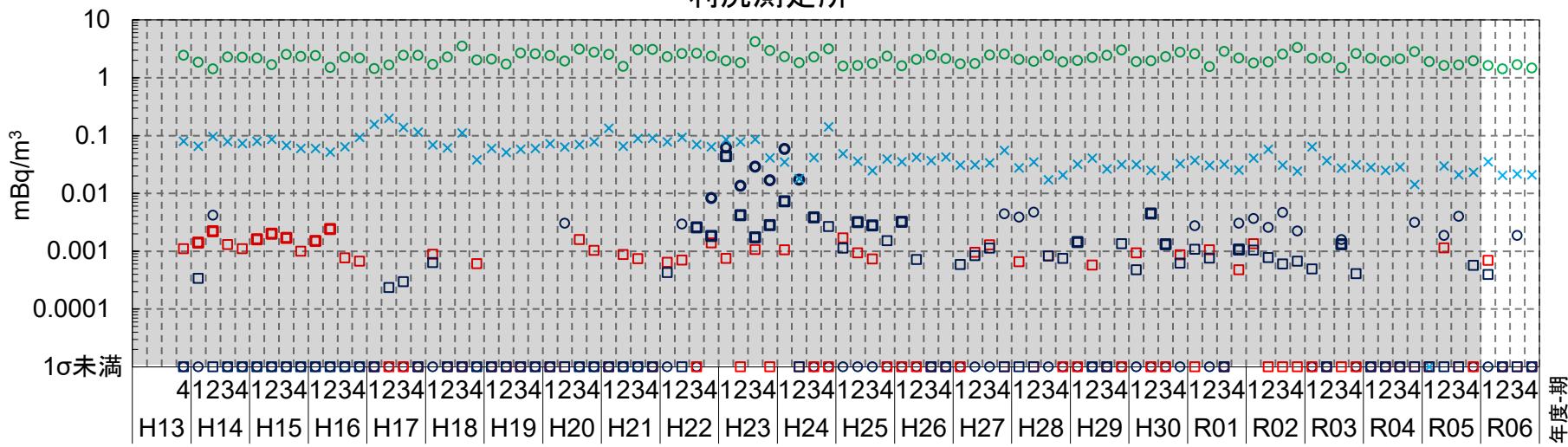
大気浮遊じん

単位: mBq/m³

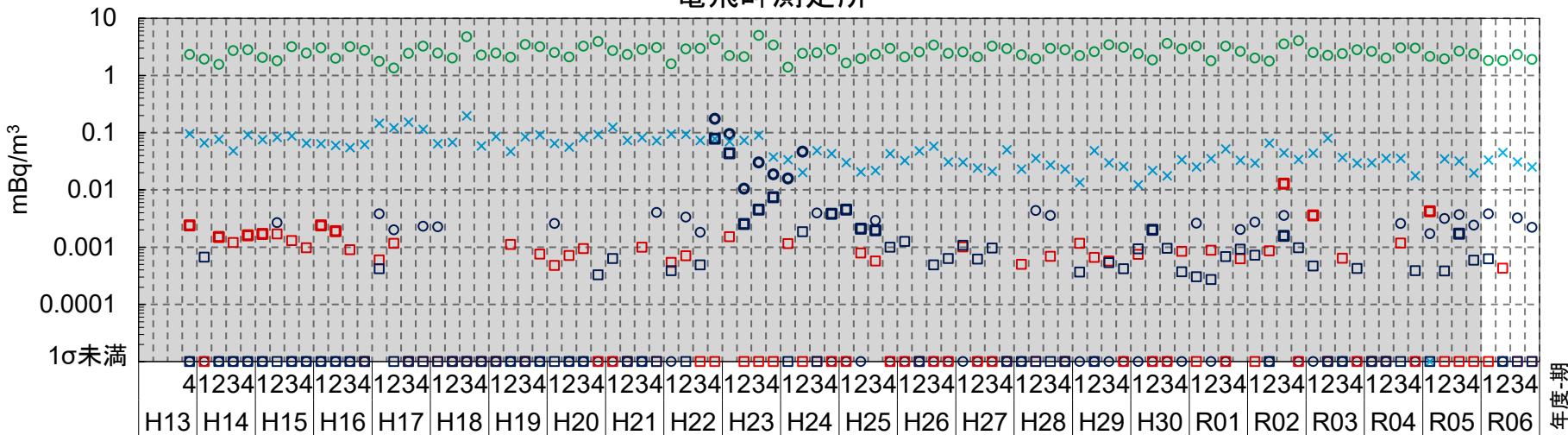
採取 地点	試料 採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
対 馬	R6/3/22- 6/21	30801052	12900	(< 0.003)	(< 0.002)	2.5 ± 0.05	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/6/21- 9/20	30801052	12700	(< 0.002)	(< 0.002)	1.3 ± 0.02	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/20- 12/20	30801052	12800	(< 0.005)	(< 0.003)	2.7 ± 0.11	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/12/20- R7/3/24	40806052	13000	(< 0.008)	(< 0.007)	3.0 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.0009)
五 島	R6/3/22- 6/21	30801052	14200	(< 0.008)	(< 0.005)	2.3 ± 0.08	(< 0.002)	0.0011 ± 0.00031
	R6/6/21- 9/20	30801052	13300	(< 0.008)	(< 0.005)	1.5 ± 0.06	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/9/20- 12/19	30801052	13300	(< 0.01)	(< 0.006)	2.7 ± 0.18	(< 0.002)	(< 0.001)
	R6/12/19- R7/3/24	40806052	14400	(< 0.008)	(< 0.006)	2.9 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.0009)
辺 戸 岬	R6/3/25- 6/17	30801052	12500	(< 0.008)	(< 0.006)	1.6 ± 0.09	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/6/17- 9/9	30801052	12200	(< 0.009)	(< 0.006)	1.1 ± 0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
	R6/9/9- R7/1/6	30801052	17700	(< 0.008)	(< 0.005)	2.2 ± 0.12	(< 0.0009)	(< 0.0008)
	R7/1/6- 3/24	40806052	11400	(< 0.02)	(< 0.007)	3.3 ± 0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
ろ紙 Lot. 30801052		—	(< 0.2) Bq/試料	(< 0.09) Bq/試料	—	(< 0.03) Bq/試料	(< 0.02) Bq/試料	
ろ紙 Lot. 40806052		—	(< 0.2) Bq/試料	(< 0.09) Bq/試料	—	0.028 ± 0.0058 Bq/試料	0.021 ± 0.0043 Bq/試料	

大気浮遊じん

利尻測定所



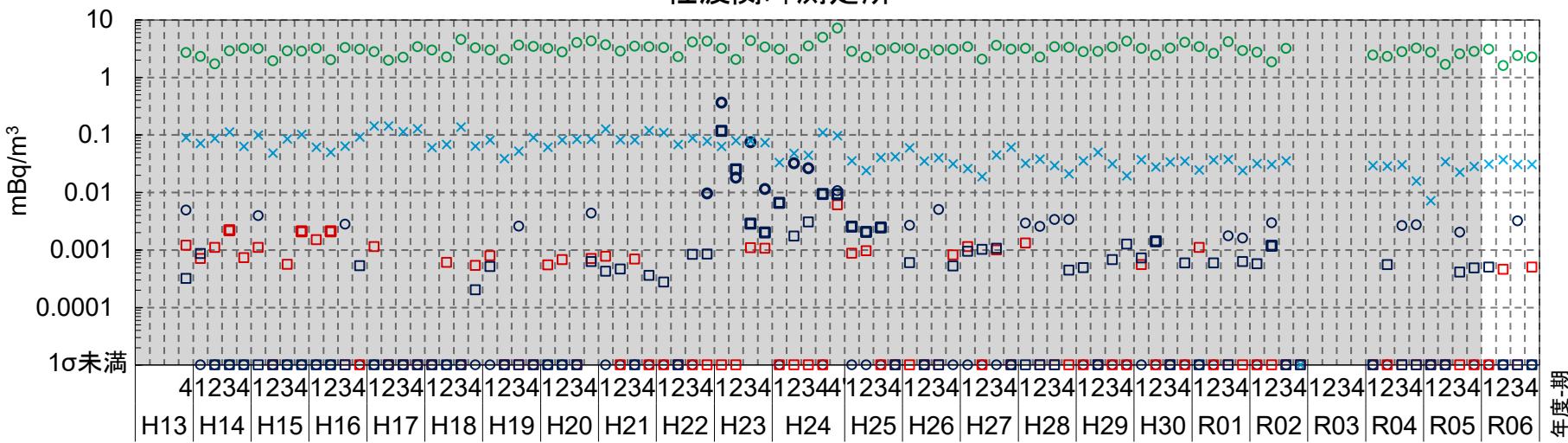
竜飛岬測定所



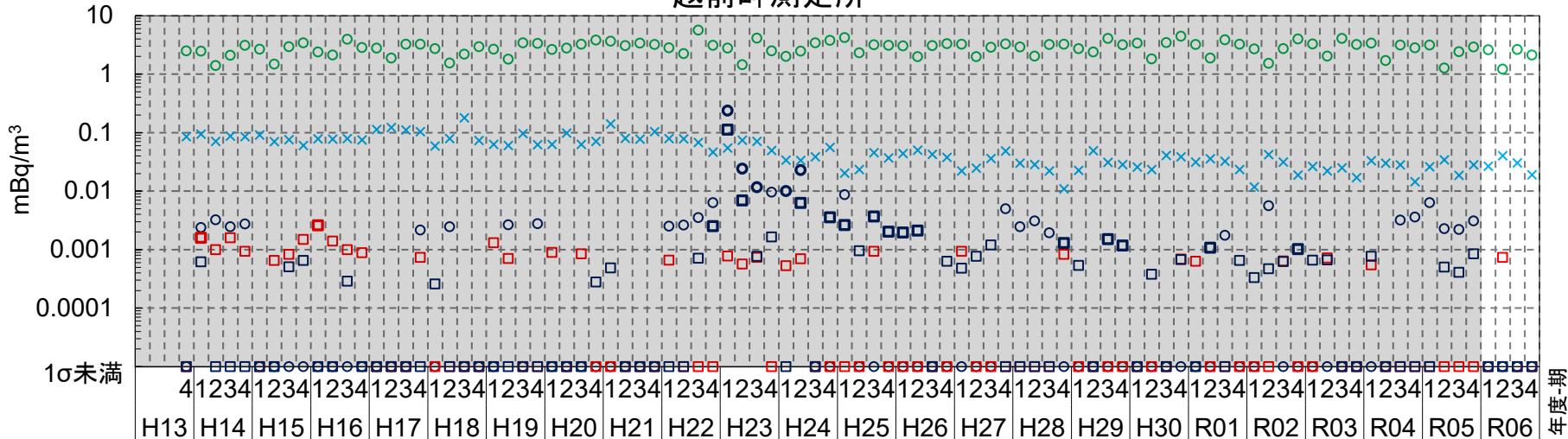
○ Be-7(γ)	○ Cs-137(γ) 1σ-	○ Cs-137(γ) 3σ-	× Bi-214(γ)
□ Sr-90(β) 1σ-	□ Sr-90(β) 3σ-	□ Cs-137(β) 1σ-	□ Cs-137(β) 3σ-

大氣浮遊じん

佐渡関岬測定所



越前岬測定所

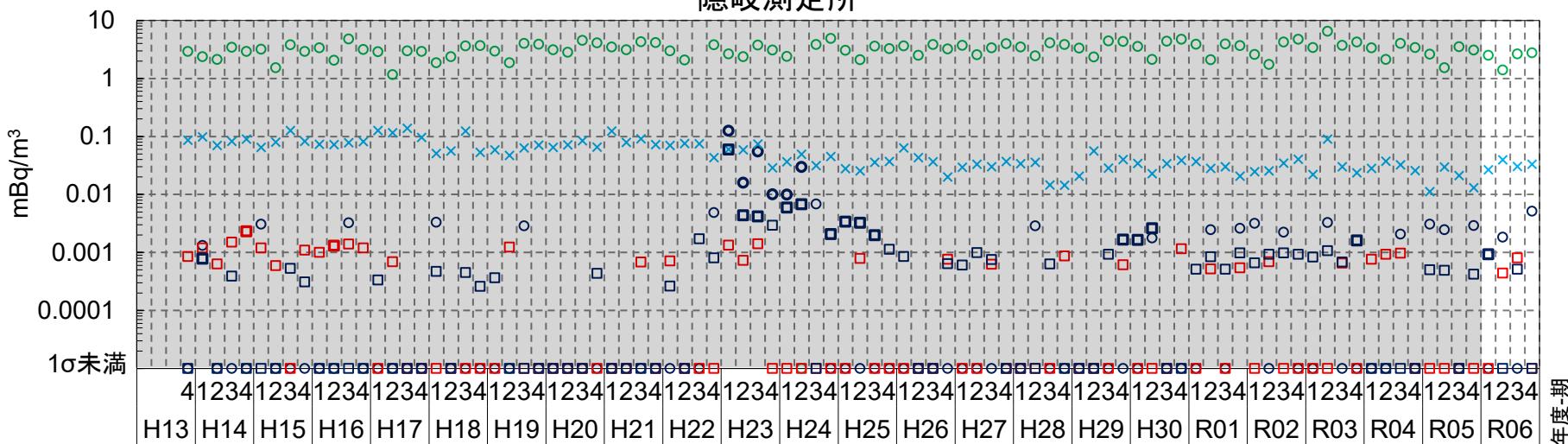


○ Be-7(γ) ○ Cs-137(γ) 1 σ - ○ Cs-137(γ) 3 σ - × Bi-214(γ)
 □ Sr-90(β) 1 σ - □ Sr-90(β) 3 σ - □ Cs-137(β) 1 σ - □ Cs-137(β) 3 σ -

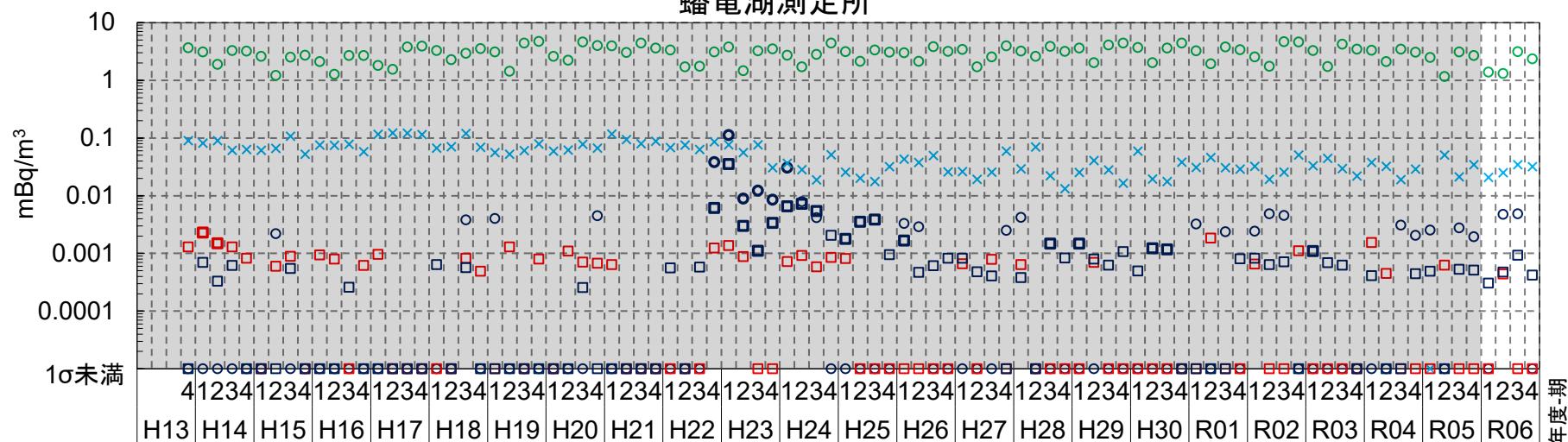
※佐渡関岬測定所の平成24年度第4四半期は、北朝鮮核実験に伴いろ紙の使用量が大幅に増加し、捕集期間の途中でロットの異なるろ紙に交換したことから、ロット別に値を報告した。

大気浮遊じん

隠岐測定所



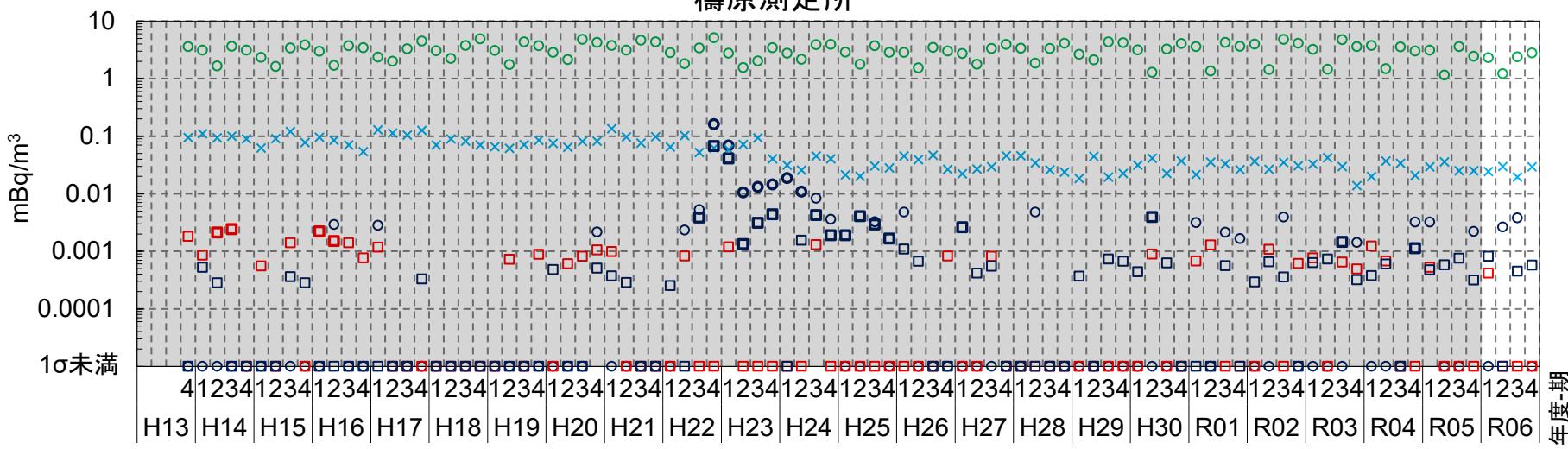
蟠竜湖測定所



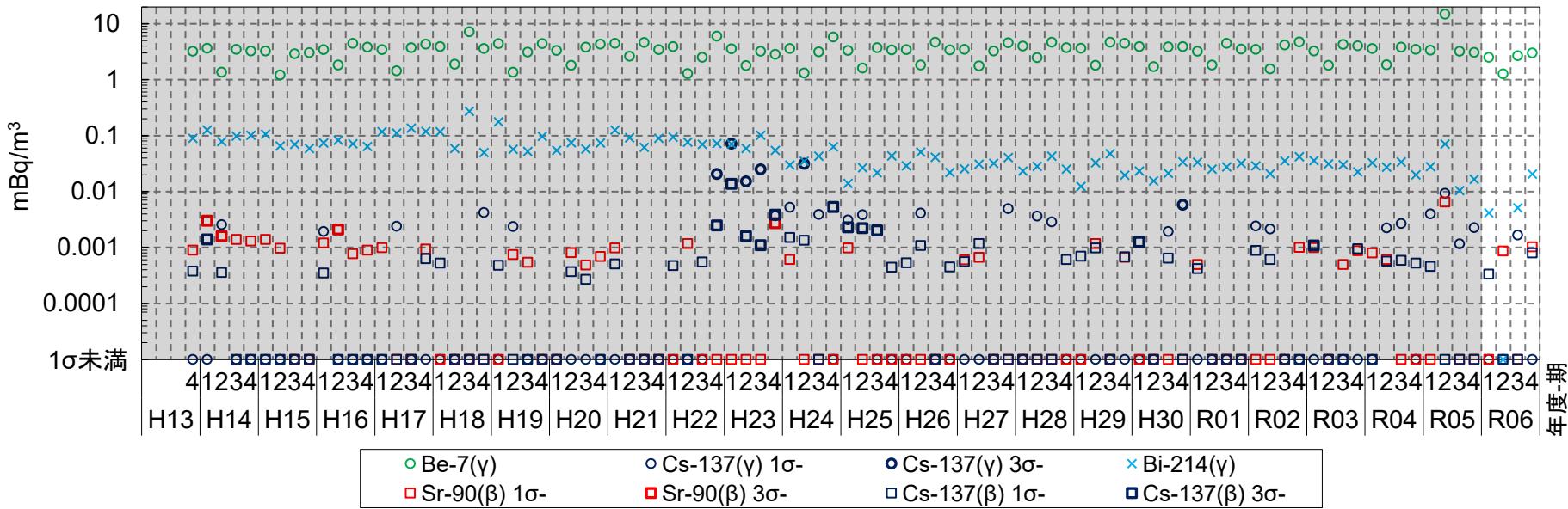
○ Be-7(γ)	○ Cs-137(γ) 1σ-	○ Cs-137(γ) 3σ-	× Bi-214(γ)
□ Sr-90(β) 1σ-	□ Sr-90(β) 3σ-	□ Cs-137(β) 1σ-	□ Cs-137(β) 3σ-

大氣浮遊じん

橋原測定所



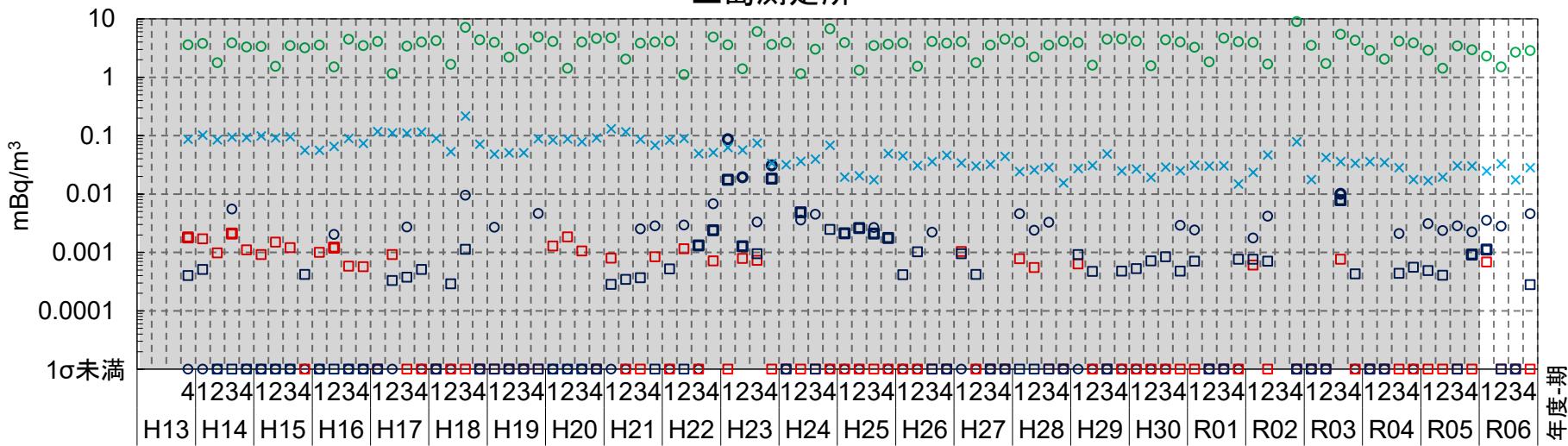
対馬測定所



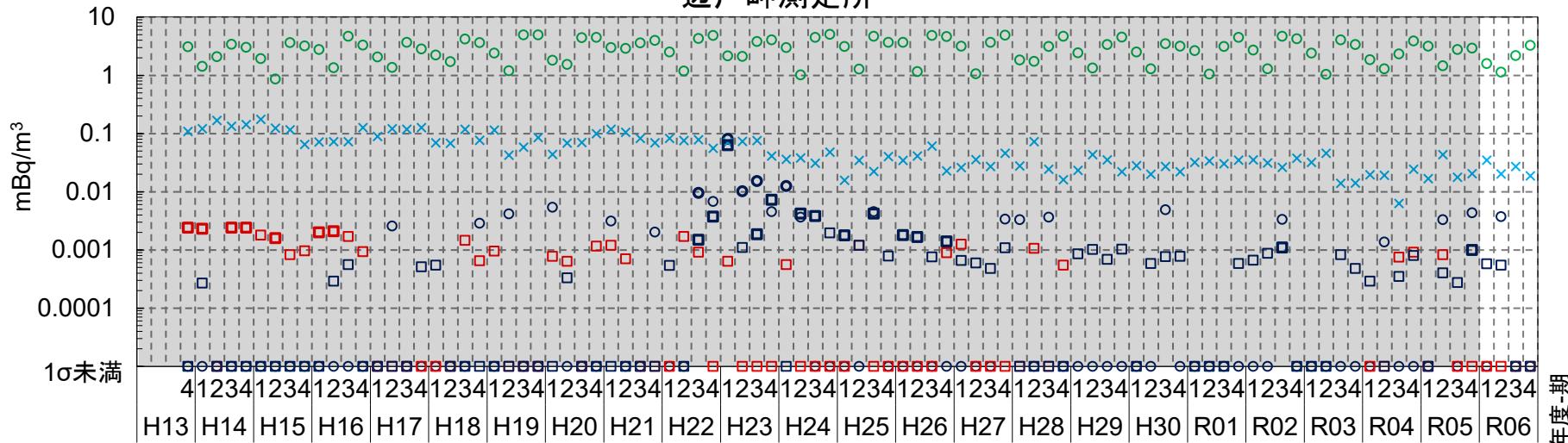
※対馬測定所は、令和5年6月28日～9月19日の期間で落雷により測定機器不具合が発生した。令和5年度第2四半期は、吸引量が少ない(通常の1/9程度)ため参考値とする。縦軸の目盛の範囲が他の測定所より大きい。

大気浮遊じん

五島測定所



辺戸岬測定所



○ Be-7(γ)	○ Cs-137(γ) 1σ-	○ Cs-137(γ) 3σ-	× Bi-214(γ)
□ Sr-90(β) 1σ-	□ Sr-90(β) 3σ-	□ Cs-137(β) 1σ-	□ Cs-137(β) 3σ-

大気降下物

放射化学分析

単位:MBq/km²

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和6年4月 - 令和7年3月		令和3年4月 - 令和6年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND	ND	ND - 0.059	ND - 0.12	ND - 0.29	ND - 0.23
佐渡関岬	0.057 - 0.40	ND - 0.085	ND - 2.1	ND - 0.12	ND - 0.30	ND - 0.16
隱岐	ND - 0.044	ND	ND - 0.18	ND - 0.059	0.12 - 0.76	ND - 0.15
五島	ND	ND	ND - 0.12	ND - 0.032	ND - 0.12	ND - 0.098

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取終了日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

大気降下物

単位:MBq/km²

採取 地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R6/4/1-7/2	(< 0.07)	(< 0.05)	450 ± 3	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/7/2-9/30	(< 0.07)	(< 0.05)	240 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/9/30-12/31	(< 0.07)	(< 0.05)	340 ± 4	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/12/31-R7/4/3	(< 0.06)	(< 0.04)	360 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)
佐渡 関岬	R6/3/29-6/28	(< 0.07)	0.053 ± 0.017	110 ± 1	0.082 ± 0.014	0.043 ± 0.0095
	R6/6/28-9/30	(< 0.2)	0.12 ± 0.023	130 ± 2	0.40 ± 0.030	0.085 ± 0.0085
	R6/9/30-12/26	(< 0.1)	(< 0.07)	300 ± 4	0.14 ± 0.018	0.045 ± 0.0089
	R6/12/26-R7/3/31	(< 0.06)	(< 0.05)	200 ± 2	0.057 ± 0.014	(< 0.03)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

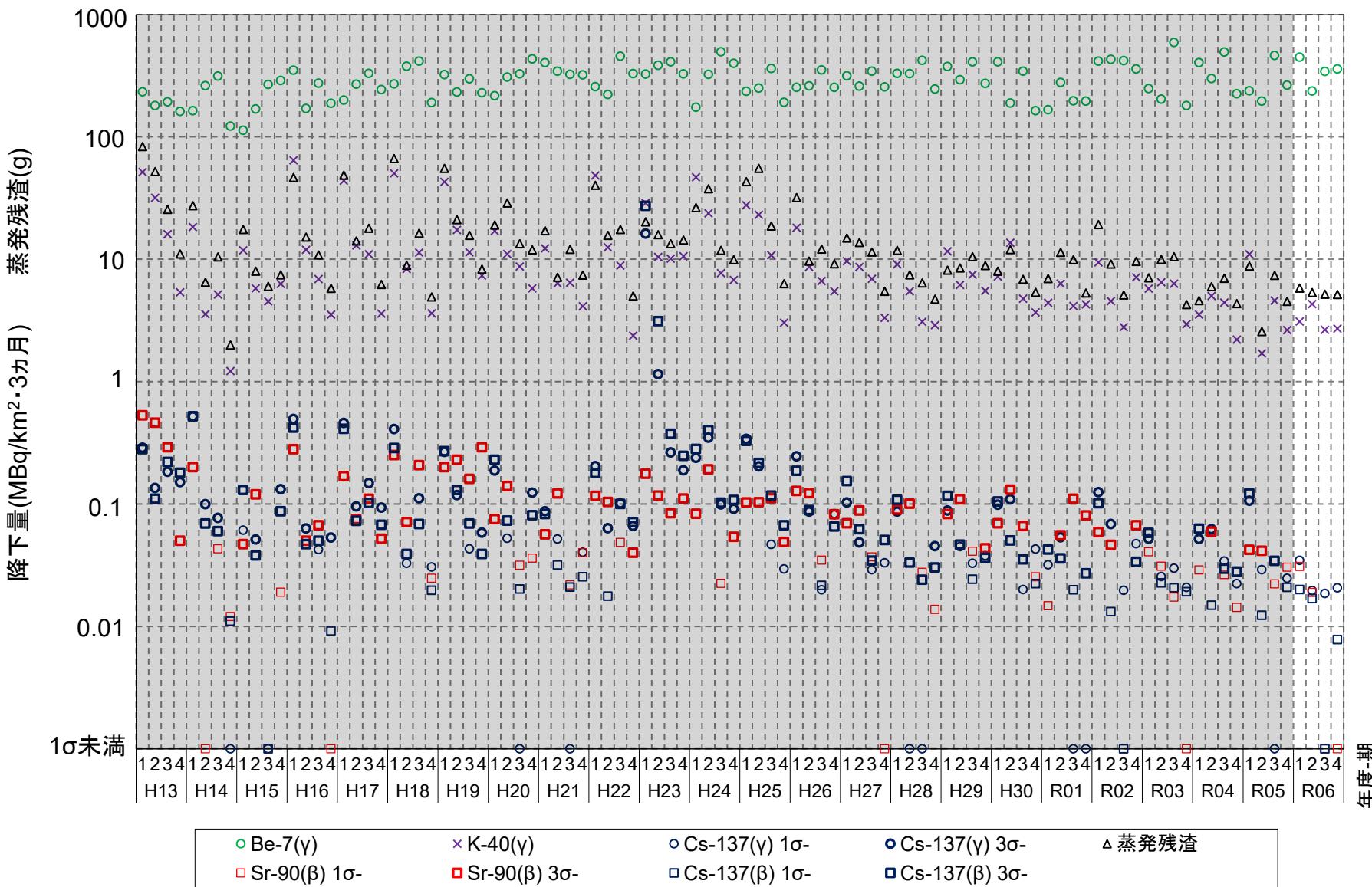
大気降下物

単位:MBq/km²

採取 地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隱岐	R6/3/21-6/27	(< 0.08)	(< 0.05)	42 ± 0.9	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/6/27-9/26	(< 0.07)	(< 0.05)	24 ± 0.6	0.044 ± 0.012	(< 0.03)
	R6/9/26-12/26	(< 0.08)	(< 0.05)	110 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/12/26-R7/3/24	(< 0.07)	(< 0.05)	140 ± 1	(< 0.05)	(< 0.03)
五島	R6/3/22-6/21	(< 0.08)	(< 0.06)	340 ± 3	(< 0.04)	(< 0.04)
	R6/6/21-9/20	(< 0.08)	(< 0.05)	78 ± 1.1	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/9/20-12/19	(< 0.08)	(< 0.05)	280 ± 4	(< 0.04)	(< 0.03)
	R6/12/19-R7/3/24	(< 0.07)	(< 0.04)	360 ± 2	(< 0.04)	(< 0.03)

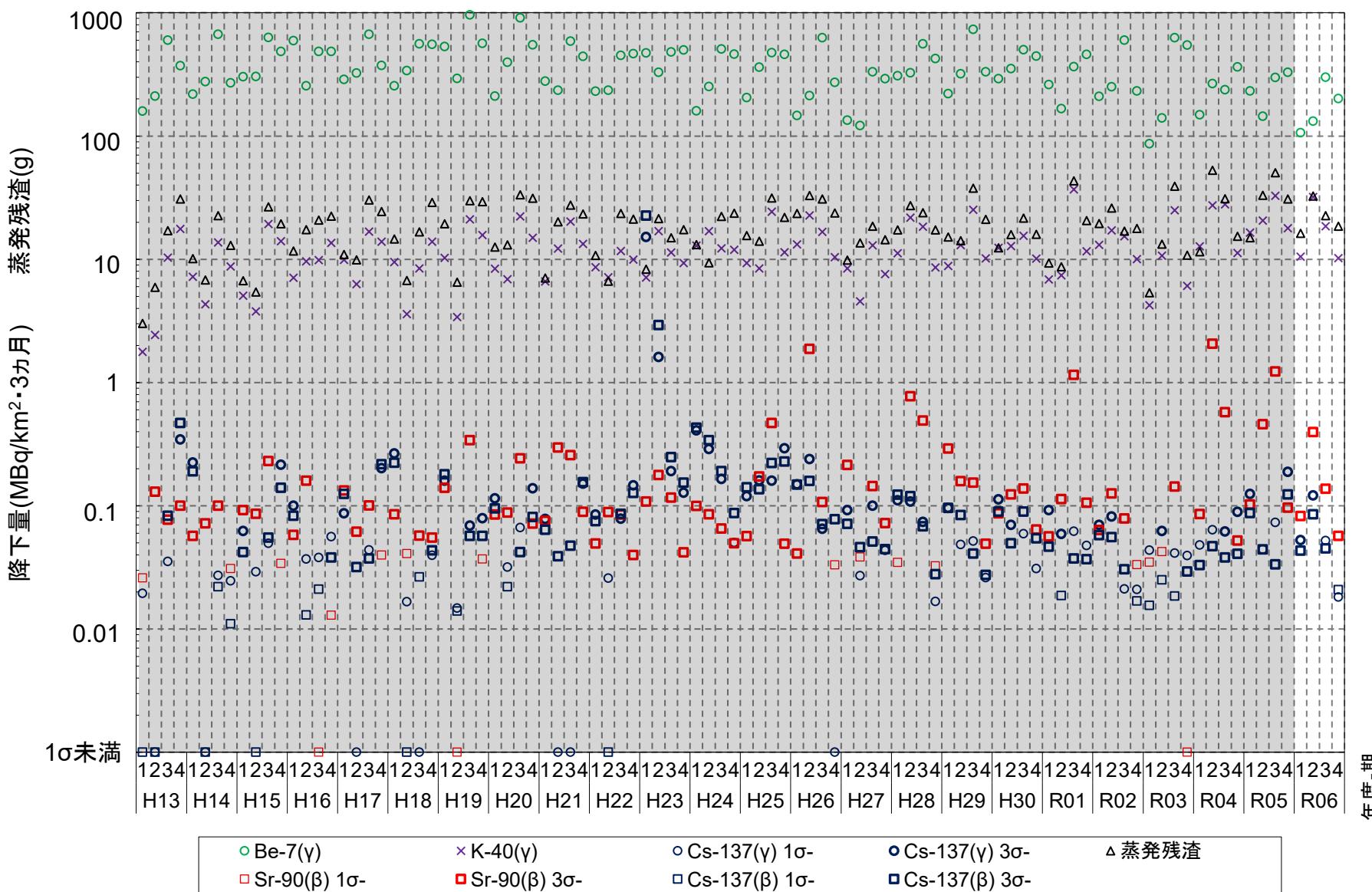
大気降下物

利尻測定所



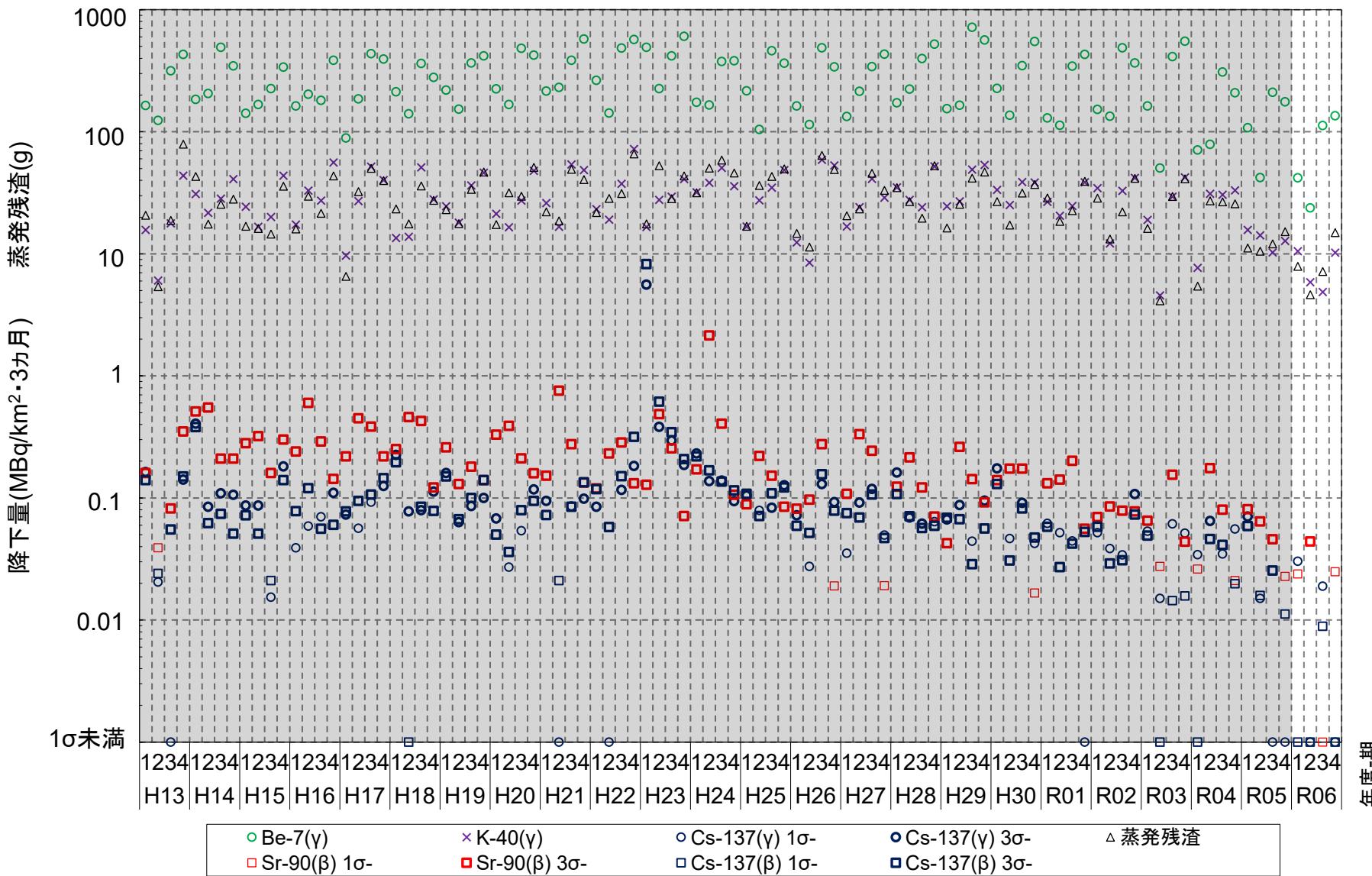
大気降下物

佐渡関岬測定所



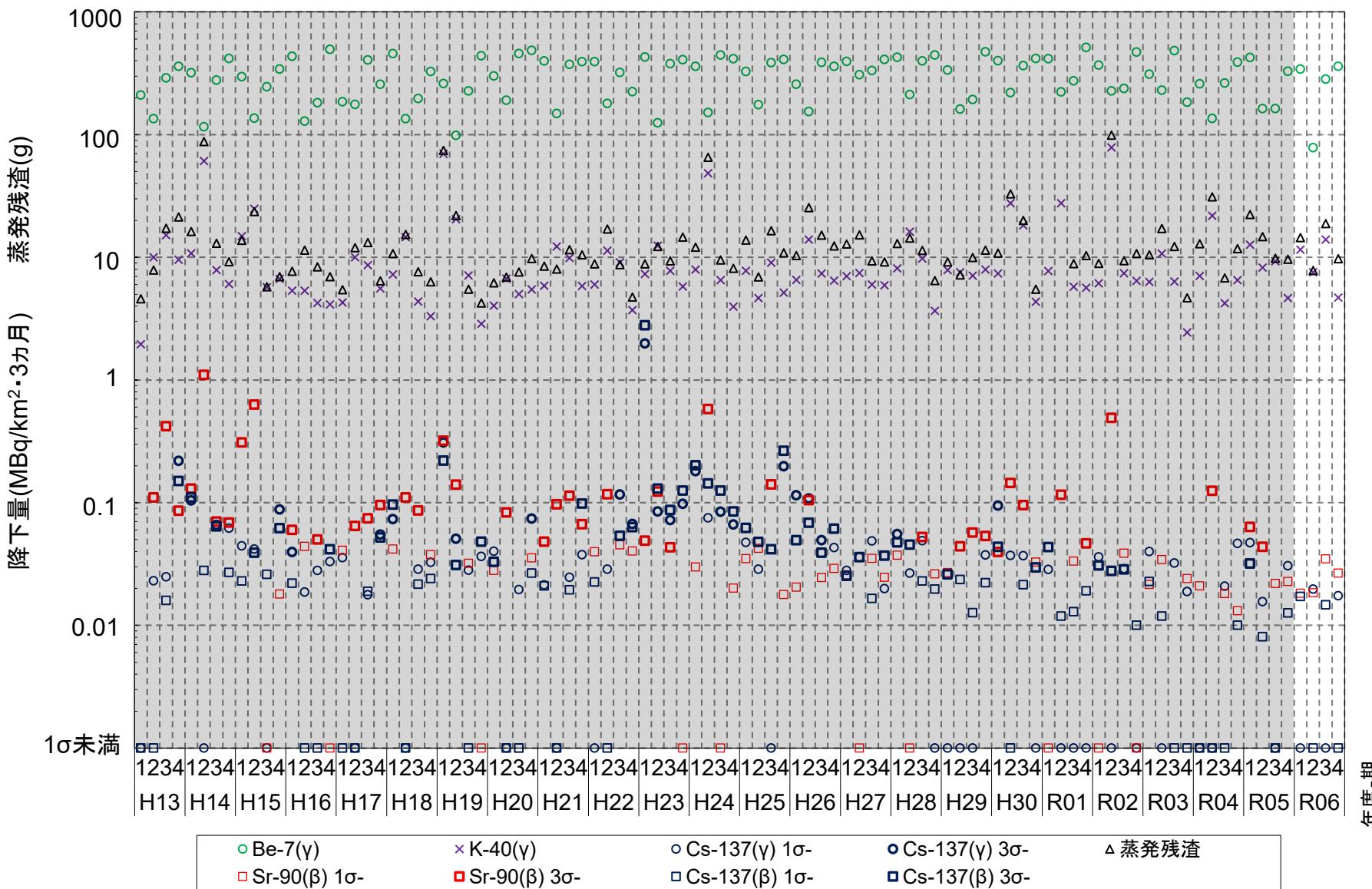
大気降下物

隠岐測定所



大気降下物

五島測定所



土壤

γ線スペクトロメトリー

単位:Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果			比較対象①			比較対象②		
		令和6年6月 - 9月			令和3年6月 - 9月			平成21年6月 - 9月		
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
※ 佐渡関岬	上層	ND	15 ± 0.4	ND	ND	34 ± 0.7	ND	ND	51 ± 0.7	ND
	下層	ND	7.9 ± 0.34	ND	ND	8.3 ± 0.37	ND	ND	18 ± 0.5	ND
隱岐	上層	ND	13 ± 0.5	ND	ND	17 ± 0.6	ND	ND	14 ± 0.5	ND
	下層	ND	3.8 ± 0.35	ND	ND	5.5 ± 0.40	ND	ND	4.7 ± 0.36	ND
辺戸岬	上層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.89 ± 0.27	ND
	下層	ND	1.1 ± 0.25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

上層は0-5 cm、下層は5-20 cm

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※ 佐渡関岬測定所では、土壤試料採取地点に新たに砂利が撒かれていたため、地点を変更した。

土壤

放射化学分析

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果		比較対象①		比較対象②	
		令和6年6月 - 9月		令和3年6月 - 9月		平成21年6月 - 9月	
		⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
※ 佐渡関岬	上層	4.5 ± 0.25	13 ± 0.3	1.6 ± 0.16	26 ± 0.5	3.7 ± 0.23	46 ± 0.6
	下層	2.6 ± 0.19	6.1 ± 0.22	1.2 ± 0.15	7.1 ± 0.24	3.6 ± 0.24	16 ± 0.4
隠岐	上層	0.52 ± 0.10	13 ± 0.3	0.83 ± 0.13	15 ± 0.4	4.0 ± 0.26	13 ± 0.3
	下層	0.47 ± 0.091	3.9 ± 0.18	0.30 ± 0.099	5.0 ± 0.20	1.2 ± 0.14	4.5 ± 0.19
辺戸岬	上層	ND	0.58 ± 0.081	ND	0.33 ± 0.065	0.45 ± 0.10	0.51 ± 0.076
	下層	ND	0.61 ± 0.083	ND	0.40 ± 0.080	ND	0.87 ± 0.096

上層は0-5 cm、下層は5-20 cm

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取終了日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

※ 佐渡関岬測定所では、土壤試料採取地点に新たに砂利が撒かれていたため、地点を変更した。

土壤

単位: Bq/kg乾土

採取地点	採取深度	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
			¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
佐渡関岬	上層	R6/7/9	(< 2)	15 ± 0.4	(< 9)	4.5 ± 0.25	13 ± 0.3
	下層		(< 2)	7.9 ± 0.34	(< 8)	2.6 ± 0.19	6.1 ± 0.22
隱岐	上層	R6/7/18	(< 2)	13 ± 0.5	(< 20)	0.52 ± 0.10	13 ± 0.3
	下層		(< 2)	3.8 ± 0.35	(< 20)	0.47 ± 0.091	3.9 ± 0.18
辺戸岬	上層	R6/7/17	(< 2)	(< 0.9)	(< 20)	(< 0.3)	0.58 ± 0.081
	下層		(< 2)	1.1 ± 0.25	(< 20)	(< 0.3)	0.61 ± 0.083

上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

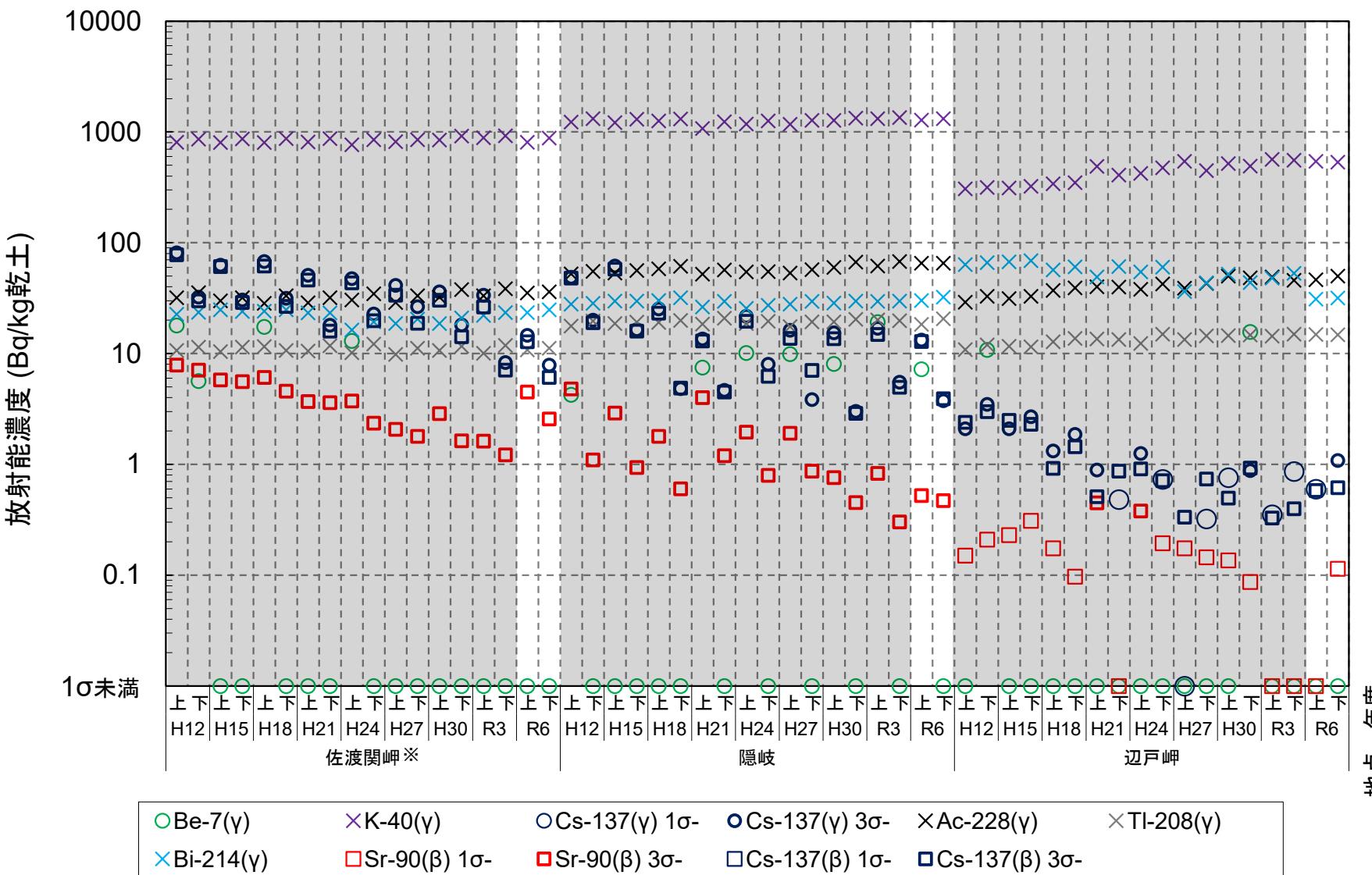
放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※ 佐渡関岬測定所では、土壤試料採取地点に新たに砂利が撒かれていたため、地点を変更した。

土壤



上(上層)は0-5 cm、下(下層)は5-20 cm

※ 佐渡関岬測定所では、土壤試料採取地点に新たに砂利が撒かれていたため、地点を変更した。

陸水

γ線スペクトロメトリー

単位:mBq/L

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和6年6月 - 9月			令和3年6月 - 9月			平成21年6月 - 9月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
佐渡関岬	ND	ND	11 ± 2.7	ND	0.28 ± 0.085	ND	ND	ND	5.6 ± 1.1
隱岐	ND	ND	26 ± 1.7	ND	ND	7.7 ± 2.3	ND	ND	37 ± 1.9
辺戸岬	ND	ND	ND	ND	ND	19 ± 2.8	ND	ND	4.1 ± 1.3

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

放射化学分析

単位: mBq/L

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和6年6月 - 9月		令和3年6月 - 9月		平成21年6月 - 9月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
佐渡関岬	0.42 ± 0.073	0.24 ± 0.048	0.38 ± 0.083	0.15 ± 0.046	0.46 ± 0.085	0.17 ± 0.052
隱岐	1.4 ± 0.12	ND	1.3 ± 0.12	ND	1.8 ± 0.14	0.21 ± 0.051
辺戸岬	1.3 ± 0.12	ND	1.4 ± 0.14	ND	1.7 ± 0.13	ND

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

陸水

単位: mBq/L

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
佐渡関岬 関川	R6/7/10	(< 0.4)	(< 0.3)	11 ± 2.7	0.42 ± 0.073	0.24 ± 0.048
隱岐 亀の原池	R6/7/18	(< 0.4)	(< 0.3)	26 ± 1.7	1.4 ± 0.12	(< 0.2)
辺戸岬 辺野喜川	R6/7/17	(< 0.4)	(< 0.3)	(< 4)	1.3 ± 0.12	(< 0.2)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

